

1 単元名 「わたしたちのまち 美野島商店街～住吉っこにできることは何か～」

2 単元の目標

- 美野島商店街元理事長の話を知り、実際に商店街に行ったりする活動を通して、商店街を続けていくためにたくさんの人々が動いていることを知り、現状と課題を理解することができる。(知識及び技能)
- 商店街に関わる人々の工夫や努力について考え、さらに自分たちにできる取り組みは何かを考え、それらを適切に表現することができる。(思考力・判断力・表現力等)
- 商店街の様子に関心を持ち、これからも住み続けられる町のために何ができるのかを意欲的に考え、進んでまちの方々と関わろうとすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、総合的な学習の時間「SDGs わたしたちのまち 美野島商店街～住吉っこにできることは何か～」で地域の商店街に焦点をあてた学習を進めていく。近隣には大型ショッピングモールやスーパーもあるため、人の流れは、商店街よりもショッピングモールやスーパーに流れているという課題がある。また、商店街で働く方々の高齢化及び後継者問題、商店街に人が集まらないという課題もある。

この50年間で商店街の店舗数は半減し、商店街の継続自体が大きな問題となっており、元理事長の話を伺う中で深刻化しているのが理解できた。そのような商店街の課題に子どもたちが出会ったとき、商店街の今後のことについて「自分事」として考え、「行動」していこうとする姿勢を養うための学習である。

そこで、商店街の元理事長をゲストティーチャーとしてお招きし、私たちの住んでいる町の商店街がどのように変化していったのかを講話してもらおう。昔の商店街の地図や店舗数の減少の資料を見て、今とは様子が違うこと、身近なお店が昔からあったことに気づかせる。また、美野島商店街が「博多の台所」として、多くの方々から愛され、商店街を頼りに買い物に来ていたという事実に対して、子どもたちは驚きを隠せないと予想される。

これらのことから、商店街が年々衰退しているという現実を知ることによって、商店街がいつか消えてしまうかもしれないという課題に直面することになる。子どもたちにとって、自分の町の商店街の直面する課題が切実な問題となっていくと考えられる意味では、この教材は価値あるものである。

(2) 児童観

子どもたちが住んでいる住吉の町は、博多駅から徒歩10分の立地で非常に便利な場所である。そのため、転出入が非常に多い地域である。子どもたちの両親や祖父母がもともと住吉の町に住んでいる家庭もある。本学級の子どもたちは、31名中の20名が生まれてから住吉の町に住んでおり、住吉の町に思いをもっている子どもは少なくない。ただ、住吉の歴史について詳しい知識を持っている子どもたちは多くない。

しかし、素直で心優しい子どもたちが多いため、衰退していく商店街の課題に直面させることで、力になりたい、どうにかしたいと願う子どもたちが多くを期待する。

また、社会的な事象や身の回りの実態などから課題を見つけたり、友達との対話を通して考えを練り上げて具体的に実践することができたりするようになったこの時期に課題を取り上げる意義は大きい。

(3) 指導観

はじめに、本単元の導入では、美野島商店街の元理事長をゲストティーチャーとしてオンラインでお招きし、住吉の町の歴史を講話してもらう。また、美野島商店街の昔の資料を提示してもらうことで、町の移り変わりの様子だけでなく、沢山の人が関わってきたことで今の町があることに気づかせる。元理事長の話聞き、自分たちに何かできることはないかを考えるきっかけと自分の町の商店街について未来のことを考えさせたい。元理事長からは「あなたたち(子どもたち)の力をぜひかしてほしい」との趣旨の話をしてもらうことで、学習への意欲をもたせたい。

次に、コロナ禍で中止になっている商店街主催の夏祭りがあったことを思い出させ、商店街の方々がどのような努力をしていたのか考えさせる。放課後に子どもたちが自主的に商店街へ行く活動を通して、どのような人が働いているのか、どのようなお店が出ているのか、商店街の魅力は何があるのか、お客さんはどのくらいいるのかなどの視点を共有し、調べる活動を取り入れる。商店街に行った子どもたちは、お客だけでなくお店の方々もお年寄りが多いことに気づき、高齢化・後継者問題に直面すると考えられる。子どもたちに気づいたことを出してもらい、商店街の方々の思いや苦労を共有し、思いに寄り添っていく。

さらに、各学級でできることはないかを考え、学年で意見をまとめ、3つの係に分かれる。子どもたちが考えて作った「①ポスター係り、②メッセージカード係、③チラシ係」のメンバーを決め、商店街を盛り上げるために心を込めて作業にとりかかる。

最後に、美野島商店街の理事長をお呼びし、贈呈式を行う。子どもたちが入念に準備して作った贈呈物を商店街の理事長に渡し、商店街の方々に使ってもらうことで、自分たちの取り組みが形になっていることを実感させる。子どもたちの作ったポスターなどが商店街で活躍していることを知り、自分たちの取り組みで商店街の祭りが盛り上がったという感情や自己有用感が、「住み続けられるまちづくり」、「働きがいも経済成長も」を考える原動力となっていく。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

連携性・・・これからの商店街は、お店の方々だけで支えるのではなく、地域全体で支えていくことが大切であること。

責任性・・・わたしたちのまちの商店街の今後について、「自分事」としてものの見方や考え方をとらえ「行動化」できること。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

・未来像を予測して計画を立てる力

商店街の店舗数の移り変わりの表をもとに、これからの商店街の未来について考え、自分たちにできる取り組みを計画、提案する。

・コミュニケーションを行う力

商店街へ直接行って、商店街の様子を見たり、お店の方に話を聞いたりして分かったことをもとに、自分たちにできる取り組みに反映させる。

・つながりを尊重する態度

商店街との関わりを通し、様々な人とのつながりが豊かな学びになっているということを自覚し、尊重しようとする。

・進んで参加する態度

商店街のために自分にできることはないかを考え、意欲的に関わりをもとうとしたり、考えをつくらせたりして、商店街に貢献しようとする。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

・世代間の公正

美野島商店街は住吉のまちにとって大事なコミュニティの場であり、生活に必要な場であることを認識し、高齢世代から若い世代までが世代間を越えて守っていこうとする。

・世代内の公正

自分たちだけでなく、高齢者から幼い子どもなど、安心して過ごせるまちづくりが大切である。

・達成が期待される SDG s

8 経済成長と雇用

1 1 住み続けられるまちづくりを

1 7 パートナリーシップで目標を達成しよう

4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
① 美野島商店街元理事長の話 を聞き、町の歴史を理解して いる。 ② 商店街へ実際に行く活動を通 して、商店街を続けるために 沢山の方々が動いていること を改めて知り、分かった現状 と課題を通して、考えをまと める技能を身につけている。	① 商店街の継続に関わる人々 の工夫や努力、思いについて 考えている。 ② 商店街のために自分たちに できる取り組みは何かを考え 、ポスターなどで表現してい る。	① わたしたちの町の商店街の様 子に関心をもち、これからも 商店街が継続していけるため に何ができるのかを意欲的 に考えようとしている。 ② 少子高齢化、後継者の問題 に関心をもち、自分なりの考 えをもととしている。

5 単元の指導計画 (全10時間)

学習活動	○ 学習への支援	○ 評価・備考
見つける 1 住吉の町の歴史を知り、学習の見通しをもつ。 ・ 店舗がどんどん少なくなっている。 コロナ禍で店を閉める店舗も増えた。 ・ お店の人には高齢者が増え、後継者がいないため店を閉めなくてはならない。 GT①	○ 美野島商店街元理事長を GT として招き、自分たちの住んでいる町の歴史について講話を聞かせる。 ○ 商店街の店舗数の移り変わりの表を見せ、今後存続が難しいことを実感させる。 商店街の店舗数の移り変わり 昭和50年・・・160店舗 平成5年・・・80店舗 令和3年・・・40店舗	ア① (知・技) イ① (思判表)
調べる 2 美野島商店街の現状や課題を調べる。 ・ お店の方々とお客さんが仲良く話をしている。つながりがよく見える。	○ 美野島商店街を見る上での視点を考えさせ、見学ならびにインタビューに行かせる。 (視点)	ア② (知・技) ウ① (主体的)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間によっては人が少ない。 ・ 新しい店舗もできている。 ・ 商店街は地域にとっては必要である。 ・ 子どもが買い物をするとおまけをくれる店があった。子どもに優しい。 <p style="text-align: right;">放課後（1週間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのような人が働いているのか。 ・ お客さんはどのくらいいるか。 ・ どのようなお店が出ているのか。 ・ 商店街の魅力は何があるのか。 	
<p>深める</p> <p>3 商店街が続いていくために自分たち にできることは何かを考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商店街に足を運んでもらうために、チラシを配るといいと思う。 ・ お店にポスターを貼ることで、お店の人もお客さんも喜んでもらえると思う。 ・ 夏祭りのSNSで商店街のアピールをするといいと思う。 ・ お店に飾りをつけて明るくするとともに人が集まると思う。 ③ 	<p>○ 話し合いを進めていく上で、見学して分かったことをもとに、以下の3点を踏まえ、話し合いをさせる。</p> <p>①現実的なもの ②喜んでもらえるもの ③継続的であるもの</p> <p>○ クラスでまとまった意見を学年で話し合いをさせ、6年生としての考えや提案を作っていく。</p> <p>① ポスター係 ② チラシ係 ③ 飾り係</p>	<p>イ② (思判表)</p>
<p>4 係に分かれて作業をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お店のいいところをポスターに入れてみよう。 ・ 全校のみんなにチラシは配りたいから、チラシの内容はわくわくするようなものを入れたいね。 ④ 	<p>○ 商店街の方々が喜んでもらえるような表現物になっているのかを考えさせる。</p>	<p>ウ① (主体的)</p>
<p>広げる</p> <p>5 商店街のために作成した表現物の贈呈式を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめの言葉 2 子どもたちより表現物の贈呈 ならびに提案 3 商店街理事長より 4 終わりの言葉 <p style="text-align: right;">GT①</p>	<p>○ 理事長に表現物を紹介し、商店街が今後も長く続いていくために自分たちで考えたことを提案させるようにする。</p> <p>○ 商店街理事長の話を聞くことで、自己有用感を持たせることと、今後商店街への関わり方について考えさせるようにする。</p>	<p>イ② (思判表) ウ① (主体的)</p>
<p>6 住み続けられるまちづくりのために自分が今後も継続してできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も自分たちのまちのためにできることを考えて行動していきたい。 ・ この活動を後輩にも伝えたいな。 <p style="text-align: right;">①</p>	<p>○ SDGsの観点から、継続的にできることの視点を持たせ、自分事として再びとらえさせる。</p>	<p>イ① (思判表) ウ② (主体的)</p>

6 成果と課題

- 商店街のためにできることを真剣に話し合い、贈呈物を作り、贈呈するまでの子どもたちの姿から、SDGsで大切にされている「自分事」として、学習に取り組む姿が見られた。

子どもたちの授業後の振り返りには、「いろいろな世代の方にも来てほしい。昔からずっとあるこのすてきな美野島商店街が、これからさきずっと続くようにおすすめしていきたい。」(資料①)と述べられている。この振り返りから、子どもたちがESDの価値観「世代間の公正」について、学習を通して意識するきっかけになっていったことが分かる。

また、他の子どもの振り返りには「美野島商店街をもっと盛り上げていきたいです。」(資料②)と述べられている。この振り返りから、子どもたちがESDの資質・能力である「進んで参加する態度」について、学習を通して培ってきたことが分かる。商店街のために自分にできることはないかを考え、意欲的に関わりをもとうとしたり、考えをつくったりして、商店街に貢献しようとする姿勢が見られたことはこの学習の意義があったように考えられる。

資料① 子どもの振り返りから ESDの価値観「世代間の公正」

これから、美野島商店街が昔のようににぎわって、いろいろな世代の方にも来てほしい。この私たちのとりくみが少しでも美野島商店街の力になればいいと思ってます。昔からずっとあるこのすてきな美野島商店街がこれからさきずっとつづくように、まだ行った事のない身近な人におすすめしたりなどの取り組みをしていきたい!!

資料② 子どもの振り返りから ESDの資質・能力「進んで参加する態度」

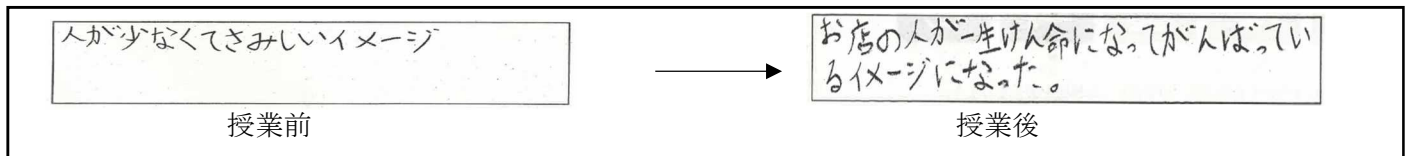
「SDGs美野島商店街」の学習を通して、最初は、自分達に、何ができるのか?とか、本当にできるのかな?と、不安がたくさんあって、(バザーに)けど、実際、ポスターやメッセージなど、たくさん美野島商店街に、協力できてと思います。自分達のポスターがはられて、たくさん、お客さんが、増えるといいです!そして、美野島商店街を、もっと、明るく、盛りあげて、いきたいです 😊

○ 子どもたちが感じていた商店街のイメージは、授業前では「人がなくてさみしいイメージ」であった。しかし、授業後には「お店の人が一生懸命がんばっているイメージになった」（資料③）と振り返っていることから、商店街という漠然としたイメージから、「個」に焦点を当てて考えることができるようになった。商店街の方々の頑張りに注目できたことで、学校と商店街との交流がなされ、子どもたちが商店街にさらに親しみを持つようになったことが分かる。

次に、「僕はこの町の出身として、将来までみのしま商店街が続くように、自分達ができることを多くやりたいです。」（資料④）の振り返りから、ESDの資質・能力である「つながりを尊重する態度」が養われたことが分かる。「この町の出身として」という振り返りには、この町に自分が存在しているとの深い自覚が感じられる。商店街での様々な人とのつながりが豊かな学びにつながっていったことも分かる。

また「問題を解決するにはどうすればいいかなど、考える力がついた。」（資料⑤）、「自分で行動する力が身についた」（資料⑥）という子どもたちの振り返りから、ESDの資質・能力「未来像を予測して計画を立てる力」が醸成されたと考える。商店街の現在の課題に対して、子どもたちが考え、行動できたことが、商店街のお店の方々の力になれたことを子どもたちなりに実感しているからだと考える。

資料③ 子どもたちの振り返りから 商店街のイメージの変容

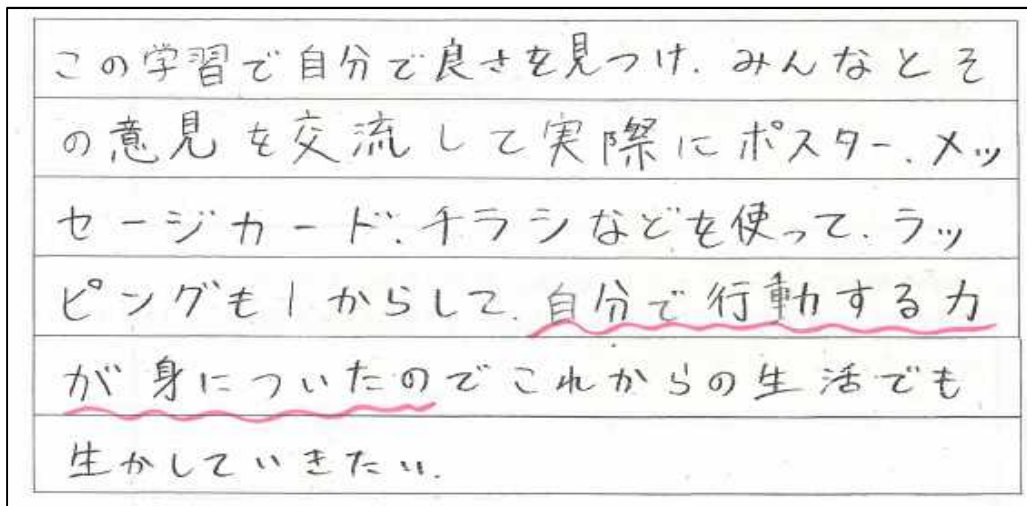


資料④ 子どもたちの振り返りから ESDの資質・能力「つながりを尊重する態度」

美里予島商店街のSDGsの学習をして、
ポスター・チラシ・メッセージカードの取り組みなどをして、
たくさんのご意見を学び、分かりました。僕はこの町の
出身として、将来まで美里予島商店街が続く
ように自分達ができることをできるだけ
多くやりたいです。

資料⑤ 子どもたちの振り返りから ESDの資質・能力「未来像を予測して計画を立てる力」

この学習をして、問題を解決するにはどうするか
などの事を考える力がついたので良かったです。
これからは、これまでより商店街に行ったりし
たいです。そして、商店街が活気のある楽し
い商店街になってほしいと思いました。商店
街には特定のお店にしか行ってないのて、他の
所に行ったりもしたいです。



- 総合的な学習の時間の目標達成のために、他教科との関連性をカリキュラムマネジメントしていくことで、より深まっていく学習になっていたのではないかと考える。今後、ESDの学習を組む際には、他教科との連携を事前に考え、授業を進めていきたい。

7 考察

この学習を通して、授業者として子どもたちの変容を身近で感じる事ができたことは、私にとって大きな収穫であった。子どもたちが「自分事」としてこの学習に取り組めるために大切なことは何だったのかを考察する。

1つ目は、「人との出会い」の大切さである。学習前は、自分のまちの商店街であるにも関わらず、興味・関心は薄かった。しかし、商店街元理事長との出会いと講話を聞くことで、今まで多くの方々がすみよしの町のために尽力してきたことや、商店街を愛し続けてきたことを知り、子どもたちの心に元理事長の思いが入っていた。そして、子どもたちが実際に足を運び、現状を確認することで、今まで気づかなかった、お客さんの流れや、商店街の店の方々に目が向くようになった。

商店街元理事長の「もう一度 博多の台所 みのしま復活 商店街と住吉小で」との熱い思いを聞いた子どもたちの心には「自分たちがやろう！」という思いになったという点で、ゲストティーチャーの存在は大きいと考える。

2つ目は、地域にある「商店街はとても大切な存在であるということ」を再認識できたということである。学校という立場からすると、学校は地域の協力なしには、よりよい学校運営は難しいと考える。みのしま商店街に足を運ぶと、保護者が買い物をして店主と世間話をよくしている姿が見られる。地域にとって商店街はコミュニケーションの場となっており、特にコロナ禍の中で人と接することが難しい中で心の拠り所になっている人は少なくない。地域が元気であると、そこに住んでいる子どもたちも元気になり、学校もさらに活気がみなぎるものだと考える。

また、子どもたちにとっても商店街は大きな存在である。登校時や下校時には商店街を通る子どもたちに「行ってらっしゃい」や「お帰り」など、温かい声をかけてもらっている。その温かさを知る子どもたちだからこそ、商店街を存続させたい、何とか力になりたいという思いが重なり合って「自分事」へと意識が変容してきたのだと考える。(資料⑦)

以上の2点から、子どもたちが自分事になった過程には、「出会いの大切さ」と「商店街が大切な存在との再認識」が必要であったと考える。

しかし、それ以上に大切なことも見つけることができた。それは、授業者の私自身の思いの変化である。

商店街を教材にしたかったのも、商店街に実際に足を運び、その場で話を聞き、魅力を感じたからである。その思いを子どもたちにも共有したいとの思いが、単元構想を構築する上で原動力となった。

この実践が持続可能になるために、校内でのカリキュラムとして位置づけを行うことができたことも、管理職をはじめ同僚の協力なしにはできなかったことである。またこの授業を計画推進していくにあたって、本校の管理職の先生や、商店街の理事長や元理事長、理事の皆様、そして奈良教育大学の中澤先生、大西先生に多大なるご支援およびご指導を承ったこと、感謝の気持ちでいっぱいである。今後も子どもたちのためにひたむきに尽力できる教師でありたい。

資料⑦ 子どもの振り返りから 変容の記述

ポスターを作る時美野島商店街のいい所をあげ
つけられたことです。また自分の考えも変りました。前
は美野島商店街に行きよ、いいと思っていたけど、今は、
いい所を調べて、おんぼに取って、美野島商店街に行
こばいさそつ、美野島商店街に来る人を増やしていき
いと考えが変りました。(㊦)